家事記

天保四癸巳年

歳旦

雪中菴

對山

東洋文庫

春興

[illegible] 鄭山

[illegible]の池の亀

[illegible]

[illegible] 仝

[illegible]

去年はさくらの[illegible]
ふるさとの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

寒々亭 青牛

百柱[illegible]初日[illegible]

掃除の[illegible]らい 對山

[illegible]白[illegible]元宝[illegible] 粗文

舞天

[illegible]の白い雲の紙　[illegible]

[illegible]やこさき　[illegible]の[illegible]

今年

[illegible]乃舟　全

[illegible]のろ[illegible]

三始

碧玉齋　鳳湖

初霜や[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の門　對山

[illegible]のぬ[illegible]て　東門

春雨

春雨一日降て
海棠の花の羅
大とも也 信の
中の形の如

乱源

仝

句題

流雪館

松風を三月初の雪
鶯のつくり殘す花
知はまく辛皮虎の老て

千條

對山

北元

霧天

りの紙あるる
都まで出る月

今歳　　仝

婦子の弁ふ
日をうたて事外

子喰

東君　　藁蘭館

走れる雲と恢くの色丸　　心寫

風なきうの数の梅候　　對山

春の雪尾花帽子の李　　皐塵

表紙

桟際の雪うしーー
ぶとやまもの毛　心写

唐来

美紀
事ハ雪まる程　仝

佳氣　雪月亭

富士を写す刷毛の尾から
出る雲霧の色　對城

俄偶吉原やまもらん　了輔　對山

春栄

柳ちるの河ぞ　夢の舞　等雄

乗花　春の花

ゆく春の業の　仝

ちるまくさ　帆外

開端

雲立て雲つなぎ雲の初の雪　漏月庵　湛雪

見つ色の雨に残る外垣　對山

詠雲雪の笑を味こん　丈雨

春景

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

全

上日

芙蓉楼　壁乙

[illegible]

池の水の深さしめらん　對山

春優春の二竹おのづから　平樹

[illegible]

[illegible]　　槿乙

[illegible]　　仝

[illegible]

更始　　保風亭　千載

[illegible]

[illegible]　　對山

[illegible]　　旦水

春色

[illegible]　ちあき

[illegible]

金さして船うらら
出るやまの[illegible]

仝

仮旦

松窟齋

帆柱の[illegible]初日[illegible]　壽山

[illegible]のかすら　鬱山

[illegible]の[illegible]　吉良

喜樂

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　春山

[illegible]　全

[illegible]

上陽　胎葵　秋

凝霧の[illegible]

[illegible]の[illegible]　對山

梅靜[illegible]　[illegible]　橘童

書屋

西川[illegible]の
あらしをこゝ[illegible]
秋

晩菊

かけもの[illegible]
めつらし[illegible]
全

詔年

大さゝや鶴の羽根の寸三ッの彩　雪亭

波うつるなかい[illegible]の根　對山

旅人の風呂敷包ゝ[illegible]　雪鶴

春雨

おぼろ出る月まちの
梅のうちをうつの丸　墨丸

春雨

燈籠ともしかねて
さらく月の雪　仝

一　春雨　五乗菴　八十翁

雨ふる芝踏みあるく秋の場　不圓

かけうたる榛の泣迷　對山

絶へとるめるみ山の陰陽　文雨

春雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春興

鶯老初ぬ世の春　不雪

春ぬれや梅の花　全

大歳

春ぬれや春ぬ

拾ふ人ぬ　句雪

歳旦素堂并春興　白坐住吉東谷初出吳竹

後河原深川連

山里や初日のさすもとくらし　羅旦

鶯子の泣ぬ見れば見れば　〃

初風や春ぬ立るる吉　樂水

洲の先へ雲の居つく雲れ　〃

西のうみことハらぬをとのれ　〃

天変をつけてかとる月の梅　唐寓

春風や鶯の居まる咲の沢　〃

四方引て平洲ぬまるの水　〃

吟つる春やうしろのかへりさき　雪谷叟　素丸
梅折しゑの梅りけ岑戸家小　〃
昇る日や二新年へてきらひ　〃
梅をうえ〻き新一新年朱子　大梅
梅折を梅よつるき生ゆ小　其高
時うきうきうも舟のついて　やすき小　魯哉
業納一てうつくやきや梅ま月　来也
梅乎梅るむふうを雪小　〃
年つ〻のきもうし一ゆる少カ小　〃

松影

四のあるもきかへ高年初写　似月高　霍山
扇をこ家もうえうとの音　〃
紬植も初ゆ山ま仮ゆ小　梅友
百の尾を伝ふて飛こふ　〃
市のやこ〻ひうき月ようく　〃
新緑うう吟つるやうきの春こう　芳莪
月高く新年き　〃
春分ま年ぬ吟やと高　〃

葉をうゝゑせうれハちつゝき　去六
あ原ハ一まめく阪次の石の群　〃
釜のゑ一ひとあゝゝまち傳る　〃
きる人の沢山出て出の出　溪雲
川風のうるうゝゑうゝきの月　〃
ちるのゝ外を拾ふやとのくれ　〃
ゝきのまちふめハ雪のの白いうち　花朗
きゝまちゝやう雑きゝ一ゝ細源　〃
係表の雪　松ゑハ春のきちうち　〃

釜うゝ掃て釜うゝちの出　池水
きゝ風やきゝ枯ゑ汐の話　〃
年ひの表をきゝうゝて係表のゝ　〃
万年の小春ゑ春てうゝ　坐嘯
月の拾ちゝ咲きうゝ小　〃
紅やう葉ゝゝる山茶小　〃

蒼場　吉江大久保達

ゑいまゑ小ち雑のうゝ小　雪爲
つゝゝて新掃のせきゝ丈小　〃

こゝろなく咲る梅の花の香に
梅は分きて仕せて旅の一夜かな　就高
春つゆ雨ぬるゝ横の雪
杉杉の遠雪やとしのえくる　釈　湖梅
昆のゆも雪の消の在りかな
稚雪ハしらけ雪あきらかな
雪ゝの時なるらくのいさゝかな　釈　無茅
蛍やこ味強雪ゝ家の雪
月の梅夜の明安きくもりかな

松風のゆゝしく活や初ゝ子　十三才　玉高
秋雪の雪はゝ岳ゝ雪の家
ゝ　ゝ
ちらゝく枝の雪ちる門田うれ　十才　無高
えゝやぞゝのリこゝき海のゝゝ　ゝ　この一ゝ女
雪やゝ雪ゝき雨の行ゝる
雪を待リ梅を雪ゝ多口かな　ゝ
万年を聖ニ子ゝ空ゝ京かな　ゝ　苔雪
雨ゝく生て枝のさゝかな

紙屋の せいかは 弱極小 、
きりぎりす 三河 与り 巴 柳
らら〳〵 雪て 赤ゝ大ゝら 、
初霜 笑い 金せて 起よう 山サキ 足 五
夕ぐれ 時雨 霜 ゝゝゝ 、
小屏風 三 月 きるやと 三 、
赤 部 ゝて ゆゆや 馬 等 無
て 光 ゆ ゝら ゝら 山の 旅 、
ちゝや ん ゆ ゝら 小の 風 、

初日 出 ゆ ゝ ゝ 百 小 院江
日の 出 ゝ ゝ く 喰て 都 小 、
けとの 梅 ま 霜 ま く 小 義 小 、
世の ゆ ま き ゝ ま ゝ 結 毛 の 寿 釈 山谷
ま ゝ ゆ や 猪て 山の ち ゝ く ま 、
ま ま 結 小 の ゝ ち ま い ち 小 、

吉江堂の縣建

言 山の 日 を 元 日 の こ ろ 小 内聖 井 儒
と の ま ゝ ゆ る 山 ま の ゝ 小 、

東方五十の音語を用て

雲の香わとしとふる松の宿　大七　夷白

梅一輪一輪ほどの暖かさ　帆江

春さめ柱のつゆ伝ふ小

くれなゐと いとれぬ梅の咲ぬ

鶯の――わまあるやとの西　民古

つれわ第の沈へ沈へ

きつつ――ふるこそ

蝶の舞おきあて松の月夜

山ゆかしとふる雪のおとウルシ　一丁

梅梅さいるの丈　まつせうり

いんるも沢きまま山や潮海光ハンタ　宣彭

出まりのことよちゆうゆ銭月

ふふふ月のきふ梅の枝　招一

山ゆやりとふの雪をつもる

ふふをつよ鶴ふて結ぶ小ハトリ　三峡

鶯よむの名もあるまの海

すきさの日の影ふる戸柳小

月ちの　ちつくきわけたひのもち　池性
豆をさくさくゐのふる　おやゆく　ゆ　〃
星をんてふ山のうるわ　除　夜詣　〃
きつきやうの　ゐうきをいのみち　上シマ　一乗
猶　物のもりうやうや　物のを　〃
雪星ふるこゝろの光の　四下　〃
えゐ山のうけさき　川を渡　青樹
○　物をのをくへうける　双葉の山　〃
四ちめのゐる雪星をいの　〃

○星ふつきちゝ　和ゆ和　ヨコスカ　雪雲
きゝ物や今星ゐるの中まゐる　〃
しつきをつゆうかゐて　除夜の雪　〃
物　丁のちをゝ入ちつを　云月
夢つめる池の白いやとふこゝ　〃
ゆのゝとゐの雪ちをの内　〃
○居ちて呼人ちを　除夜の鐘　コマツ　割中
羽織ちきゝ男やゐ夷　風戸
○　聘の面や一伸ちるのを　移沸

国竹内義安主の男さか　景憲

元三　武甲斐川郡内達

百年の春あらはれつ初鳥　梅素

波の音聞こえて後ろ寒の雲　〃

塩釜の松ゆとしの古日小　〃

戸の透き海の白山や初日影　桂止

ふる里とつもきそやや梅の香　〃

三月の末とも梅つる春雨小　〃

春山の明るや明るの末　東我

弥生のひきもきそめ梅ん小　〃

いとしの中ら出る鶯ロうれ　〃

えりや一塩ふる和の雲　左右

四月小つ〜ての雲小　〃

ふ〜ふ〜雲天ちらつく時雨小　〃

七の末ふ雲の陽の末ふ　麦岐

梅とまるんつるふ麦ふ　〃

きの〜のふ〜の末ふ〜と〜の弟　〃

四月ふ〜ふ〜雲ふ〜ふ〜の末ふ　魚交

きくのはの中ら梅のつるしル　、
いひすてゝ[illegible]ふらふらとして一ぱい　、
赤ら石をくるとゝのあさぶ　眩枕
梅ゝの[illegible]ゝ[illegible]わき[illegible]ゝ[illegible]ぶ　、
ゆるやかに人ゝをもうとゝのくれ　、
初まつや[illegible]の葉ゝまの[illegible]ゝ　白河
[illegible]ゝ[illegible]ゝ中ゝ[illegible]ゝ梅のぢ　、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　、

玉光

伊豆内浦連

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　士敬
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ井戸の[illegible]ゝ　、
汐[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　此君
梅ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　鬼童
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　三竹
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　、

枝木のうれとまつるを篠ゞ　　蝶士

沼をうきうちハ蓮の葉ゞ　シケテラ　石草

雪や素さきの驛うけうつる　　、

行くゝのはを詰のこも垣根ゞ　　、

青且　　きゝ江金谷連

元日やあのうきゝ形るいろうを　　曙山

大こうう視線る灯もともしう　　、

初雪や松ゝうゝ雪る風もうき　　花員

むゝろ帆の辛まゝゝえてうきしゞ　　、

すゝ　来つきゝゝめるや除夜の鐘

雪消ぬうち初春のうゝすゝ　ヨシサハ　　蘇角

春風や沼の白波やゆうゆつ　　、

春雨やこゝうちるうきの影　　、

たるの白雲の時るゝ朱ゝうう　上方内　　惠山

傘さゝぬ酒の雫れや春の雪　　、

初日の出羽をつゞ朝の冊元ゞ　キリ山　　曙鶯

沼魚の波の雪ぬやゝのうれ　　、

生るも休めておくや　三ケ日　　柳二

ふるかるるるるるて　大こそら　、
宮ふいとり川をるるるやゆ初冬と　完澄

遠春

土佐兄弟連

○大きをつんみくふニやきのまち　桂角
○様ーまい志つるとーさ西教ル　、
○大ふくわ教の教ル雪まるら　笠雄
松枝の初ちるる春ル　、
山ちりの雪も霞ニふきぬーゆ春ル　、
リ馬去るのとちーひ残りる　桂子

呼ちるつめるのの子ちる名人ル　、
宮ちの水費雪て霞やとの弟　、
元日わ漆のまわ弾まつく　可梁
いつまるおきるき梅の蕾ル　、
凡の用のちるわ除夜の鐘　、
いくつてるるれきまを遠ゝ　桃朱
まを待孫るまつてゆちる雪　、

清展

後の蒲原吾南連

弾ひめるゆのついる梅氣　吏山

[illegible]の蓋の夢

松を書く筆の先うち和らぐ　通心

酒[illegible]　卵[illegible]やうめのも　〃

とのうれとうく人よ[illegible]れう　〃

浮[illegible]の[illegible]一つ[illegible]稱心　なゆき女

ひき和や浦松の[illegible]き　さゆき女

[illegible]　十三夫

[illegible]の来るいつもの松の和らぐ　八重女

一[illegible]　情心

[illegible]の毛　〃

[illegible]をおいつもり[illegible]のしーハすか　〃

つ松わ弄る[illegible]の[illegible]　文通

[illegible]　松や汎をう[illegible]るの[illegible]　〃

[illegible]一　[illegible]月の初[illegible]ふやとの[illegible]　〃

[illegible]の[illegible]ちう[illegible]和ら[illegible]　禎心

[illegible]の[illegible]るや[illegible]れ[illegible]　〃

松汎[illegible]　〃

青陽

下絵巨蔵連

[illegible]の[illegible]を迎る[illegible]の　[illegible]洗橋　千文

ゆくえもさだまる末のみやぢや　紙月　、

雲霧のなかにとりの山うすむ　、

みちの月おしいるくらむ弓きめ　百丈

旅の白ふ絵もてるゆす梅ゑん下　ぬもえ女

ゑ面ちや新まつ人の砂いちう　、

道新和下方の中つく長刀　子之子

とうとう晩うとゑて波の雪　、

新まうら梅ゑ雲のふくいうり下　巴成

雲も山も晴ゆくゆめ寺の雪　、

きを結梅の形のつくへ乳　、

形風や雪きうもあそふく　芋歩

うの乳ういつまんうるち形一下　、

世うまーてとゑ山ふ二を見智　後河宗　雪志

條寒詩つ乳きとーも枝の先　、

新正

武州金川柄浦連

新の雪解ふうる新梯下　文翼

雲形やひと寒ふ雲ふ久ふ　、

新うふ年て曙正一寒下　庵逸投　十乳

[illegible]こくたかひし　〃
[illegible]　〃
[illegible]　雪浩
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　雪花
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　列仙

[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　山多
[illegible]　〃
[illegible]　可四
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]

磯山へ向かんとの事かい、
某事ありと一度出られる伝

曙色

上総谷中達　東義

雲のまに雲の初日の昇りけり
咲つめる一度の梅の匂ひ下　支雄
とこしやのうるとをうる庭すめ
ちらしまを地まもうこむや春の雨　〃
おこさらぬ蕨出もうりけり大ぶり
老松の枝ぶりいくまつの下　積童

一ゆきゆきはのちらはや松のを　〃
筆てけとしのめぐり雨しられ　〃
ぶきの日向て畔くや福寿草　〃（松）
はしらきや水は流るあの池　〃
雨言の世ようまし山や大ぶり　〃
松枝て初日はよりまぶり　〃
年色のてらん曙る堅大小　〃

春味

（男の役を務て）
元日も三度の雨の事ぶり　在江戸　平尼

後向田市達

[illegible]の松　、
[illegible]　、
又[illegible]もとうつの松　晩鐘
[illegible]やうの[illegible]れる　、
[illegible]ハ[illegible]る日数ゝ　、
[illegible]の[illegible]ゝ　熟
[illegible]ハ[illegible]れらぬを梅の色　、
[illegible]や[illegible]む新[illegible]　、
[illegible]の[illegible]　四中き　月高

[illegible]ハ[illegible]の山　、栗富
[illegible]を[illegible]ゝ　高雪
[illegible]人[illegible]ゝなく
[illegible]き帰[illegible]出合[illegible]　、
[illegible]ぬ[illegible]ゝ　莨渡
[illegible]ハ[illegible]ゝ　蒼池
[illegible]の[illegible]　、

[illegible]
[illegible]　一精

○てん和へよ春を先うつる梅の色　南江

梅一枝二枝ばかりのつく出る　、

見るまゝにめをもとゝのゝ

雪の中八ツ時ばかり　在字　万年人

まさかとちるぬ水あり梅のもと　、

杉山のおくれ一さくら咲よりも　緑巴

あらぬ一ぱい咲の梅のもと　二葉女

ゆゝしきや秋の吉野の三ケ日　一水

春もいそ春やすきもの一枝小　、

杉霞

紀寿唐津産

雪舟高

雲小尾根をへて春や咲らん　紫律

玉ゝけ霞せてとゝの鶴小　、

いなつるや春の京祇の納こゝ　攀霞

霞るや梅せて　おく白の上　、

稚てゝら拾ゝきゝせぬゝ木小　、

明る止て生る　とゝ和ゝ　衛小　兼幸後　玄雅

庭ちよ出ゝ緑ゝゝ　梅のもと　、

物ことよおくゝて春ゝゝのゝ　、

[illegible]や[illegible]　共[illegible]　文素

[illegible]の[illegible]や[illegible]　[illegible]　走兎

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]　蘿月

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の人　浦秋

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

雪の見せ消ち　恒根下
一ひとしほ咲る　梅の　きさらゝ
枝ゝ　梅　日の　素　赤下
雪　ふきゝ　小　雪　ゝ　梅　小
きさらゝ　やを　さゝ　る　波の　おと
初　ち　や　仰　き　見　る　山の　頂
梅　さゝ　や　央の　消　る　おき　ゝ
最　口　日の　白　咲　る　葉の　末　ゝ
咲　ゝ　雨　ゝ　ゝ　ゝ　梅の　も

逸雪
義之
ゝ良
曳尾
昌俊
翠衣
石勝
義越
情風

雨　ゝ　梅　白　小　咲　て　隠　梅下
福　ち　ゝ　つ　日の　海　や　か　め　浮
小　ゝ　き　ま　雪　こ　動　ゝ　梅の　も
ち　梅の　ゝ　ち　ち　ま　ち　嵐下
引　咲　ち　や　こ　ー　の　留　ち　の　山
ち　風　や　雪　雪　ゝ　さ　信　の　解
反　猫　も　梅　の　下　高　猫　猫　の　ち
白　梅　や　る　の　曲　ゝ　る　宋　の　つ
咲　の　ち　天　ち　の　ち　ち　ち　む　く　て
ち　ち　ち　

[illegible]つ[illegible]をうきはなるゝ　〃　完侯
[illegible]をつゝて[illegible]の[illegible]下　〃
もちさきゝゝ笑ひさゝりの物物　〃

三月甫　　高都本厨吉村達　釈　就眠

[illegible]を[illegible]ゝ和日新　〃
[illegible]ゝく拝をおさゝり　〃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃
ふゝを我踊の[illegible]ゝ　〃　辭拙
一つゝゝ拍をぬゝゝゝの事　〃

[illegible]ゝ[illegible]の本　〃　行交
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃　聲白
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃　定集
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　〃

[illegible]

窮の尾のゆるるや　吟の声　西風

[illegible]

山姫のぬぎすてし　蜻蛉　〃

つれなきまでもとしき　蛍火　〃

ゆるゆる一声ちらやきの上　〃

[illegible]　〃

[illegible]　寿司

[illegible]　ふ楽

びるたい白鷺いのこ宮つまき　秋眉白

根の下のちらち持てとゝ[illegible]ぬ　〃

風光

後河丸子連

吟て来る声の影しゝ呼の松　仆と毋

人影や声と聞る柏掃除　〃

おち葉ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]　蒼山

[illegible]　〃

声掃て係[illegible]　〃

何部の翅[illegible]や和り影　不夕

[illegible]

雪解て新原こまやかの色　雪柳

ちるとなく梅の月夜のまくれば　〃

咲つゝのやとひもあり　やまぶきの花　〃

奥州白川達

芳春

[illegible]やうまもめわれ風のかさう素　雪柴柳　麦紗

咲こゝの新樹こまやかの梅の色　〃

いはあてー　咲のあちこちの空　〃

[illegible]　机、むかふの山　蕪柳

ーかぜのあとゝ春の月　〃

春雨[illegible]の[illegible]ーハすが　〃

えりの[illegible]の[illegible]　織元羅

[illegible]ーの新[illegible]て　〃

小料理よ敵の白ひあり春の雨　〃

最梅の[illegible]つゝる梅柳下　〃

[illegible]　筆山

[illegible]松の内　糸瓜
[illegible]磯の梅陰より入日さす頃　〃
けふの雪をさくく梅ふく　〃

答天

上総木更津畔尼発達

えのやまくのゐる鶴の新　一川
[illegible]ものうとくれぬ　〃
[illegible]の雪の[illegible]ことし　壹休
松鶴の[illegible]くやちるのき　〃
[illegible]をつくやうな朱[illegible]　〃

[illegible]人の笑ひ[illegible]升きめ　[illegible]元
[illegible]の床より[illegible]梅のちれば　〃
大[illegible]のあ[illegible]の[illegible]の[illegible]　〃
[illegible]より[illegible]く梅[illegible]やうにあ　禾風
[illegible]梅やぶつく水のまれり　〃
[illegible]ちんまひとつ[illegible]まとつる　〃
[illegible]やうなる[illegible]山の梅　素堂
[illegible]の[illegible]のんよりあれ梅の月　〃
[illegible]掃てさそ〳〵[illegible]梅[illegible]　〃

西ふやうち　鶴ヶ岡くくかさう小　青柳仮　一實

梅さくやとこしなすまこの出商人

此句寛政の頃第六

百番合の分のうち

石口乙

、

あぶやはるあらうとも山ちら　清風

鶴うとかハ春をうの清小　、

ふこうもちるう下雪ちるロ小　芦晴

とのまうこまうる梅の林乙　、

更始　上総中富津

梅ふ乙ハ春ハ風ハ梅の四　素白

とのうちのまちかたつく庭の梅　、

元日やものしつる百姓家　絲乃

垣ニてと梅のうる朱子　、

うれまうとのの乙小田小　、

笑ひ〳〵起て梅ハ代の春　什氣

夏ちうハ上野のうる橋　、

咲うる梅をこうれ日を小　、

春ちハ勢の春の鶴乙　雪度

雪やまこ屋をうるまの海

おーあをそ赤らひらけしの弟　　相模
いつこ日もすらに咲ける福寿草　　〃
春の風世こそしかに無し　　〃
豆腐の店に人あまる所に　　〃
人人春をそとの足元　　芭蕉
春立つのそんきゆるめて梅のお　　〃
ちこ　ちいひ〳〵さーハちれよ　　〃
明をーも初日やかの日の影　　素梅
雪の海と紙を高ゝ　　〃

所沢先や明れハとの梅をる　　公園
つ松ハ春ハ春あて小流もち　　〃
春の雪のーれの岸ある姫ぶ　　〃
陸子の気をハ春ーす掛　　東篠
ハ人ま橋をつゝいて春芝ぶ　　〃
雪のゆゝ影うるゝ年　　〃
むさゝさこと春ーまれ　　〃
春四ま三ひて　つのうぐうぶ　　素秀
私のハ野ま　いろるの梅ぶ　　〃

味ふてけやつものかなしさ　　松濤

元日やあさもとる人こころ　　、

雪さえてきのふ　　、

きる時て　元る　　、

初雪のしらしらと降る　　やまき

生駒山のきれとのくもり　　、

きをくらす雪　　、

きの時やはいちらしとる　　柳汀

老ぬるふるとき　　、

とも蕉つらく　　、

初雪の降るのこえぬ海の上　　菊顔

浮時の雪とおしてをよりて　　、

ひとりや人のさとあさうを町　　、

服部

いくチ代も元やこのん松ふり　　上総内このうえ　　滝舎

うめさくやれい世の春くまる　　竹山

白梅をめあてのあ母　　同令孫　　竹里

雪ふるら私の法さ寸　　和小　　毛窩

雲の日の三本をうる先哉小　、
すき中折きしの折るみやとのれ　、
松仲の枝むのさきわ沼きさう　、　秋夜
枝さ清さ以風八寺一枝のもと　一
星のむらさきこそちさこねど　、
二とき三とせ数の絡れなきもきのうきえられ　一秋
月もまよ分を仮世代のもち　、
つきさそ雲さ雲さ小　枝つ八ろう小　、
枝山の枝さつ　一つ小　、
いつさもさき心ちうにさうもち　雀時及　、　移亭

やまさ沼四合ほうさ枝のもと　、
いとうて小ふてまうとうて　なもと小　、
元日や笑ひ立ちらのうう一当　まうき
雪の月枝ま寺小　ろまま小　、
小ろ小一一西のうるや大ふそう　、
波さ小の小ろ　ろやまのもち　、　冬心
すきうる表吸の月や枝のもと　、
外生尾のはいこてふとうの乳　、
夏初ま寒生雲の雨ば　一雄

仙石麦のよんど、
ひとも一てんの清一　作表の外　、
大諏訪や高ひとつ星の四　一行
果もあく高てつの耕地ど　、
ゑ余る上まもふる和作表の雪　、
松山の風のてらしひさのまち　酒吸役　斉口
此所の地ひろるまちのさど　、
すとうて併へ見まあるれど　、
高和や戸を吹ぬのま人まち　稲屋

酒ちまき酒の自ひや村の雪　、
すまして柳まを一るあうど　、
柳まや吹市場の見まれ見　雪口
百くま本ちのろ名柳名　、
つ玉沿へ一つくのまちる木のめど　、
家ふのま桶をこまさ一つくど　兎角
四中て炉をとうまくあ大こまう　、

上日

後河角田達
新風の汐ふと和口ど　冬羅

ひとやこそ つれ
なるかやの 野べの川を 渡
陸の奥 ちかき宮和 ちの山
第一て ちかき結 の小屋
えはや 宮 ひ
ちかの ちかき おい
ちかの ちかき おい
糸掛 掛 ちかれぬ
ちかま 入 ちかま 住 ち
ちかの ちかま 流 ち

遠山
身
不盡

下 ち 流 ち 名 ち 流 ち 走 ち
つの 戸 一 ちかま ちかの ちかの
ちかま ちかの ちかの ちかの
ち 掃 ち 掃 ち 上 ち ち ち
名 ち の 先 ち 名 ち む ち ち ち
下 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
除 ち の ち 除 ち ち ち ち ち
掃 ち ち 掃 ち ち ち ち ち ち
風 ち 止 ち 掃 ち ち ち ち ち

大殿
名倉
杜梁

初しぐれ　一ぬるきいろ哉　、
一こゑの弁舌いらく焚ゆられ　蕉甫

風光

初雪又まつ雪忘のあらくさ　松窠
うかさを松へさきて月の秋　、
水鳥のあしつ紅るさいろ哉　、
ふところの色き生るぬ雪を根　こちる
もちの雪　影三の二十九日之　、
さらさらと沖のさわるかさうる　鶴雨

白雪や波の涙　、
こゝろけ、稀さしのまうう　、
ちまの南うるや行らく　蓼洲
大名の駕うちてそのうと　、
をこゝいきりわやまの雪　、
みちふかの首やさ川日の出　蔵都
ううさ世のてきめ月　、
百姓の向こんおくきいふ　、
茶湯うきさうちは炉　雨笠

大ふうさとうきさ　雪の海苔　　、

赤穂

元日の宴へ今ふるまふ　　後河内中納言達

いと保ちひとう　　月兼　　、

よ能や頃合　　鍾心　　、

潮入の蔦の色うとしの市

竹をひらい猪を稽や初霞　　岱元　　、

くさ雪ふる田のみやとしの芝　　月南

ちうちをうく　きぬ船の初日

雪ちりとしうの明ける

よい松を四つ　　初の出　　、東晁

高十ら立て　　、

えびや隠ておられぬ　松を焚うこ　　、松蓍

ふうちをうきく　　、

うり白や浮う汐の一おもて　　、李岱

雪あるとしの西ゆんやきやき　　、

松のまつのみうとしやはる　　、蓑文

とりの尾や用う寄てふとうは　　、

元日の朝のおさまりやゝ酒もり　桂一
もちつきも男持ひのくれ　〃
雨ふりとう持さうひあり初春　柔更
星くもとくく雪さう　〃
赤富士とゝ数おそひられ　麻斤
桃ゝ三度桃八重咲きをのくもきく
春の山ゆる桃ゝ二十八の星　仁亭
四の業ハ春すゝ春ゝ忙　士石
福ふくきよいつゝ春ぬ雪まぶ　府礎

雪ゝ雪のこゝろ春の行　〃
桃ゝ風ゝ雪ゝ　〃
えゝやゝ山ゝ東　仙史
しゝ雪ゝ春ゝ戦ゝ娘ゝ松　〃
色ゝ雪ゝ春ゝ酒ゝ　〃
えゝや机ゝひらく春の雪　伝源表
ゝゝゝゝ梅の咲日の雪ゝ　〃
迎ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ　申め
初ゝ新春ゝ春ゝ雪ゝ無ゝ　文自

雲をあらはしてあけそめかたうれ
耳をくつき学ぶ山のうれ　、
こと傳をうけつる梅ぐ下　、
あきやうや山の松ぬ露　三祝
ゆきのまを踏ひとつ足をあらう　柳甫
ひとをこそ古こよ　来
山をつたふ来るくいらもの去　校我
たつの和歌をしらるまの月　、
梅うゑむらをそ人の出る口下　魚文
、　蕉雄

一つをきをいつくしる夕人下　、
新甫
元日やかをるそのの影ころ　仝
和の帆をおろして見や多賀　司直
併まで来ハ来てるを和の彩　、
ほさうや和ふまるあく高て来　、
梅の絵酒もめ一ハ元ふ　伯耳
いい会をやうまるくてんぶ　、
元日やのくをのもおもしるき　蓉〻

てんぐや羽箒をこむぎの上
出るは数に入らぬ　一樹　〃
木立の茂るやたちまちくさ　石清
とたてむやまとは持てこるあさ　斜月
樹うまかつとりしる月あと　〃
けとものうつぬ山のうつれ　〃
男女の大きなはをはなれ　昌彩
まねて来て山一ちいのうたぶ　〃
ともしひの吹るき赤やすきう　〃

きくはの紙ハ海あきを玉と寄せ分てのまるをきる
若あらう　朝ものうむやをのすち　以路
大雷の立をふんてこるうんぶ　〃
猫ハ赤ひめを解をつきぶう　〃
アうの人をこそあるうつれ　鶴山
招さけく人ら先へうみう　〃
通今ようしまは集る鳥　〃
おきうや春の柏ゑまるを　清舟
ひきうこそけハつまく木の根ぶ　〃
けとのはをうこる陰ふぶ　〃

生あくるよ空てあおむや初日の出　秀松
よき種を筑ハ陸奥のすきの子　〃
うつくし用のくらべやとの堂　〃
ゆきまさりつゆはまつ　松雪楽　湖月
世の郭めぐれる西るう隙あの海　〃
ことのとの松ハうせぬ世せ　〃　石塔
ゆ弁くりまいの古き来るり　〃

青帝

吉野の桜ちりたまふ事を歎まの
ひさいるし面を高らいるかけてうのきまを迎よ

多のつくふ四を出むるる初日ハ　佐渡
まきつや墨のすりきーるけ毛　〃
ゆきまたぶ雨水ちるなし　百川
大ふう栗　白ふるーまいるる　〃
ゆ弁まこーといたきつる寺　百蔵
人の開めくくとの文ゆ　〃
鶯水門を組て堂ゆ　声風
梅のくくめてちく大小　〃
ちくちをつくるーきまゆ　〃

吉江濱松兄弟番連

よの霧の絶ぬるまつのうれ　松雪
ひとしきのみ会てくるまちかな　〃
大和路をしるるまゝのうれよ　〃
青きまゝにまちてい出しまの雲　少雪
雪の跡てあるや松ふかり　〃
雲のきるるまゝのうへの蕨うれ　〃
郭公鳴こゝろ色の三ケ日　秋甫
宮もりの袴の上や梅の蕨　〃
楊柳て社を掃やたゝらう　〃

歯黒筆をつゝる雛蕨
ちらしまま宮参りの心うれ　梅翁
雲ちかきやとしれて雲雀　〃
仲のきの先へとまつのうれ　素堂
梅さくやたちてきの月　〃
さゝ小ぶね隙あの雲　〃
きりとをゆる雲やあるうれ　影山
ゆ雪のこるうつる月あの梅うれ　〃
すきまゝにやあるよう先て芝さく　〃

つれなくぬきちのうつり香
功ちゝや孫よ鍋うし　香の紙　八重女
ちひ歩りあるよ風ふ春伊賀　〃
初鶯よつくゝや鶯東の鶯の春　九重
一わらの稲もこのさくらめつも　〃
さうれ尾よ遠つうれうちう黄　〃
潮くゝやうつ星　向ふうう新　杉雪
沢新よさゝ寸さ高やう橋　〃
物ひさ油つき馬つきよ下　〃

きつつみやまさ羽ふ高あ春の上　清夏女
つもれくゝの日鶯ふ上ふ春　〃
えかやふうくゝと　いくの香　川柳投　春頭
ふくゝきまふハ春ゝ柳　〃
鶯ようて人の沼を少新下　〃
うつあふくのうやれの春　菫子
やあ口や歩りきくゝ浪のと　〃
義うてさ夏のくゝやもちろう　〃
陽ゝや高根ふ海ふ鳴の春　幸風

川ゆもきよしとおもふ梅ぞ　〃
幸のうきなる世こ大こうう　〃
月きよの月一きんやきつ百　古喜
優しき梅を見ぬ日ぞ　〃
立掃て阿弥陀ちらし小春ぞ　〃
後てらく一ふ雪あやまぬ　時習
おとろきも梅を見ぬうら梅なら　〃
深一つ三きくとつり浦ぞ　〃
梅さけて人先へのるまこし小　珠山

綱手の綾よりもまる春の気　〃

佳氣

和歌よくあへのちる石ぞ　全　寿兆
梅ぶうくと白ふあこ　〃
白つきの雪をきとのき　〃
之まぬきを松のうを　豊表　祖仙
五まちちちち月のうう　〃
ちちの雪をきる沢小　〃
夕風ぬきぬらめの白ひぞ　巫莫

き　あくや　秋のうちも　麦畑
さつ　おくハ　花の　籾　烏集及　安歩
春の　初　花　五葉　うる　雨の　春　、
家〻　一押　おさめて　こうつ　の　帝
雲　さめて　のこ　ゆ　烏月及、雲路
一つ　こも　ら　雲　春　る　春　れ　、
すま　ら　れ　牡丹　ゆ　る　剖　る　、
い　れ　て　大　根　生　ら　梅　の　花　仕　春　及　一　日　後
ゆ　の　ゆ　き　を　降　る　ゆ　ね　ど　春　音

雪の　雪　ぬ　れ　る　猫　毛　ル　芦　舟
現　ル　る　一　雪　降　ル　ル　初　雪　浦　東
ゆ　月　を　ゆ　て　梅　の　春　ル　里　霞
す　雨　て　春　ル　ル　ル　ル　ル　楚　雲
雪　ル　ル　ら　梅　る　雪　ル　ル　る　秋
ル　の　ゆ　ま　て　も　梅　ル　ル　一　歩
羽　の　ル　の　梅　ル　ル　ル　ル　市　丸
ル　ル　て　ル　ル　ル　ル　梅　の　二　月　ル　ル　ル　ル　ル

保生
、
、
赤園
駿河清水港遠
順宇
亀民
牛糸
、

分のの賀和会をやとて三
ようとてのこのこのこてやあとこと
鶴の毒て　おのへらやおのと
南おきたんまきたんまきたんまきたの
ゆうて時りこのこのやうあの後
海とんてのあこの毒をこのりの
すおりて南世いあ麻をとおい
人のの人ようらうおいい
小の沫毒て海めうこうう

、
ようる
、
正亀
、
要尤
、
義山
、

風雅

高松宮御歌会連

白雄

ゆく春や逝く人をしむ
ものの中
ゆく春や鳥なき魚の目なみだ

十三夜

月見せて
月見せて
月見せて

みよし女
まちあ女
まち松
乙字
徒梨

百保
〃
〃
〃

芳生女
〃
〃
〃

[illegible]

月素

[illegible]

時雨

[illegible]

素香

[illegible]

素我

[illegible]

素女

宮秀

[illegible]

英山

可松

[illegible]

[illegible]の[illegible]の初日に　旦松

日ゆりや藪の中うらうめのもと　〃

四方の風さそひよる音の[illegible]を[illegible]

紙を切く余力もなくて　〃

開墾

初春のいとなみは[illegible]　東都　千鶴

[illegible]　〃

けしやの[illegible]　〃

梅の[illegible]　〃

[illegible]　〃

すきて[illegible]を結ぶ　蒔破

[illegible]　〃

井の蓋[illegible]　〃

けしの[illegible]　〃

[illegible]　作經

[illegible]　〃

[illegible]　〃

[illegible]　美栄

つやつやとおのの[illegible]草の　〃

梅

八十嶋　曉河

梅の花　東京　、

百姓乃家　起きて　太田橋ら達　白川　、

夕ゝ　清水　流れ　川の　清水　、

清水　の　ほとり　に　梅　の　花　、

まゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　俊山　、

梅の　花　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六夜　巳明

[illegible]

[illegible]

武井尾[illegible]

太皐　睡鴻

川[illegible]すむや住[illegible]を[illegible]船
[illegible]　〃
極月や[illegible]の枝の[illegible]　〃
[illegible]石[illegible]　直[illegible]
印[illegible]の[illegible]研[illegible]　〃
[illegible]の[illegible]　〃
[illegible]　如心
[illegible]　〃

きをゆるすつくの春の風味小　、
えりや静いつくし紅のかけ　田徒
ほをくんと雲ゐ陰ゐ松の花　、
ちゝはを算一樹ふやとの笑　、
新玉の雲ゐ雲ゐ狂歌　炭丸
四時の色は生るまゝ小　、
笑ふの春ゆて春を待ゐ　、
紅とをゐて月ゐこと小　一位
四月の後は春も開のうち　、

大ゐゐゐ月空色のゐゐ小　、衣静
業倉ゐこて春の待の春小　、
ゐくされい世ゐゐやす春田寺　、
古き家の松のめらやとの花　、
世の中の若しつまむの春　、輝月
月小て大波はまゐ春の月　、
ゐけ月小紙を空やとの春　、
村ゐとやゐれお庭の松ゐゐ　、倚楷
村ゐゐやのゐゐとゐる松の山　、

この山をうつす背景や海の氣
やうやうの雲をうつす水
青柳や舟うらうらの景
すきさきの海や湖のうつる
西うやうやの日ーや福壽草
さーこのをうつる 柳
新葉の白い海ちちろ
青柳や海より流る男女
ちつちや春ちまーる祝の姫

丈雲
〃
〃
恵圃
〃
〃
春星
東流

五元うつる芹田
大原へ日ーくーこ福壽草
白木の里ちつうむ 紙つき
天地のひらきおくれたちの吉
玉のちうちすやちちへきー
星屋て祝へいうめ梅のされ
ちちい松屋家やのれ
紙ーちの人ふるうちー
ちやうちう五せ牛の角

麦朱
青峰
〃
〃
欣舗
〃
〃
路月
〃

里時雨
錦糸
〃
〃
桂酒
〃
〃
同
〃

雪嶽
双里
夢里
橋里
百野
〃
〃
秋和
長口

[illegible]の[illegible]梅いりておくつゆ小　皇英
[illegible]の[illegible]小　了輔

咲陽

遠江藝山連

[illegible]やさくらもちの[illegible]　花陵
[illegible]やうちの[illegible]　〃
[illegible]の[illegible]　〃
[illegible]の[illegible]や[illegible]　双戸
[illegible]　〃
[illegible]　〃

[illegible]　洗志
雨の[illegible]の[illegible]　〃
世[illegible]　〃

用猶

[illegible]　東[illegible]
[illegible]　〃
あちきもあくあんハ[illegible]　〃
書物の[illegible]　泰一
[illegible]の月[illegible]

おもしろき人よりすき事を結山家
雪降て白ひろ〻なる　秋　小福宮連　會山
雲やふかまし〻ふかの川むこ　〃
きるの風ふく　松小　〃　地雷
稲妻　海ゆ〻　小　〃　〃
松ゆ〻のみ〻こゑ　月　歩小　〃
今ふて出つ　出つ　ぬつとの坂　〃
鶏鳴つのふかそり　松ふ　梅溪
おろ月こよひ　解ま　法　〃

雲きえてたゞのうりやたゞ
雲の風山の鶏より　月ふ　乙彦　〃

木曾　出羽松山連

ふる雨やふるまふと雲の果　時仏　〃
月ふて出やつ田のまの地　〃
雑板の雲ま雲まついふ小　〃
つ船や雲ま出いふ船　空林　〃
鮮ふつく芋ひとつ　〃
ふを二度ふく雲ふふ

高くめやせあるものの古大根　杨支
とてもとてもあるる枝ハ底かぬ小　〃
松ヶ谷の風きく　新堀小　〃

赤都星丘連

帆をしらの毛ヶ谷は松ヶ谷白鷺小　雨星
梅ヶ谷ゆんまつ山やとの毛　〃
一日人の梅を見てゆきめ　シトロ　可未
鶯の子　立て　みるうぐひす小　〃
ゆきの雪ふるとの底　〃

鶯の雪ふるこそ出ぬ小　鶯
弾きまを流てあるの雪ぬ　〃
西一枝まめ一ぬとの内　〃
西より知よ今まの一　初保宮　里雀
松まや、ぬきの雪ま朱ま　〃
底ぬのまてゆきこ大ぬら　〃
市能ま引出ら羽織小　幸山
梅ヶ谷　初ぬ一ら　梅の風　重山
茨芝も生ぬ赤ぬ家のつの　松　翠月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさりもとるあさちあけの山桜（カメヤ）　百雀
玉の目をさるさいつむ音ト　仆里
つこもりや春より陸ま小ろ姓
えりや松さくらの古屋き（アハクラ）　一牛
見う程よむうきそらをうぐ
山ときやまを行知子風もち　〃
玉のやまさ一ちうつる赤ら行小ヤカハ　秀吸
百あまさくらめも上ま行
はちちの袋排ものやとち　〃

松言うこくまるハ人まうり（モリ）　巴東
知二鮫つ知ま出る移ト　〃
三条のそらうくうとと市東　〃
夢や小山のもの巻ちと（多タ）　大可
すちちや垣の戸明る柴の仗　〃
移凡も蝶こむまとの解（ヲロ井）　仆篇
朝坊　後河口尼と高蓮
とちの義ものちり出入ト　完我
ちちんの加ことの辛ちう　〃

初春とやつるる二世の夫婦　語三
大こそうちんあく[illegible]
[illegible]　、　[illegible]
[illegible]の[illegible]の吹　[illegible]世の[illegible]　、　[illegible]
[illegible]く先へ[illegible]　[illegible]年　[illegible]山
[illegible]の[illegible]やとの[illegible]　[illegible]文
つんて[illegible]を[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]も[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

風雅

[illegible]　東都南北連
[illegible]　松雨
[illegible]　、
[illegible]の尾の地[illegible]　、
[illegible]と[illegible]　都西
[illegible]　、
切風の[illegible]　、
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]

世を虎ヶ崎へ移りまする心、

花晨　阿波

一すけの咲くやそのもの　猶水

かゝる濃まるも新生鬼まるる

和吉わつ田の水の傳一の影（伝説岩村田）　雪吾

るしるきに八ふよりとのれ

くひつくしまるこのついる風ゆ　吉我

年表のまるゆ原やきの影

（ひとくるの年福の新心ゆ）

咲ほみの百一生て年ふ一日ゆ　東五

明るつらるゆ八ふ新ふ一ふ

ひとくしまるゆ年梅のもの　金女五代、ひとくし

夢ゆ今昇る日を世のうゝ　（横スカ）一昇新

ゑゝとくらうゆ八世　（金英反）山風

引世の知ちあきゆ年ゆ

原を明てゝれ八月ゆ　（上井益毛）梅変

新ゆゑれゝ新きゆ梅のもの、

世の花しゝゆてゝれを梅ゑゝ八　（サカゝ小田八ウ）八十き変盤可

（羅漢）して

起ゆるきすゝとゆゑゝ花　費五

[illegible]

[illegible]　　巖岩

[illegible]　　賢山

[illegible]

五十嵐の一つ[illegible]の山　　節甫

見[illegible]

[illegible]の[illegible]の月

[illegible]の[illegible]　　曳尾

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　　午蒼

[illegible]の[illegible]の山　　戸田

太義

[illegible]　　伊賀葉名是富連

[illegible]

[illegible]の[illegible]の山　　嶽平橋　　穫齋

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　花笑

[illegible]

大きうなれば生きて死のがるむ
海れば水の長い長きなれど　閑歩
鬼ぬ水の深ぬ水ハうらうらや　霞江
吉の板の袴を脱ぐなれうう　全男
えりや山うらうつく麦きけ　ちき
雲の四方に生き山よりど　〃
空すれば山の間をしーいまぶ　〃
拍子合ひうらうて白鷺ど　萩霞
汲上げ小さうるやまうらう　素井

月見て拍又白ぶ鷺拍ど　〃
空うつこ来つくきやとの気　〃
新さのこうるうるうるの吉　松兎
吉里の拍をあてのきるよど　〃
麻ひうう水流ぶうう長桂　白龍
長ぶや長ー拍とうとうくる　習彩
気のうらぬるるおるやきのる　〃
石うらひ拍吉つせて五うう　〃
降生て拍ーて拍ーてる拍ど　朗風

[illegible]の濁世[illegible]　完小男　完之
[illegible]のいく[illegible]　林、　古山
[illegible]や矢走へつく和の数　三井古　法雲
[illegible]ちゑ鉢をきんて梅[illegible]　毛安
[illegible]のくらへ[illegible]らしく風[illegible]　完咲
[illegible]むゑ[illegible]船の白い　、

東君

雨[illegible]梅[illegible]る和[illegible]　東都湯月庵六蓮　[illegible]
[illegible]のり[illegible]　、

[illegible]や[illegible]馬　船[illegible]
梅さく[illegible]　、
門[illegible]用の[illegible]いや大[illegible]　、
東白の[illegible]表[illegible]　月夕
梅の[illegible]安[illegible]　、
[illegible]人[illegible]井[illegible]　、
松山の[illegible]の[illegible]　陳[illegible]　法舟
[illegible]を[illegible]　、
所中の[illegible]　、

[illegible]て往来し
浮世[illegible]すれく[illegible]
おさまれとおもへ[illegible]の市　洪叟
〃　〃
俗を[illegible]おもふ[illegible]　洪妹
沙伯の人のちいさき家に
物を[illegible]市の出[illegible]　〃
四季のいつさ[illegible]　午映
〃　〃
[illegible]の[illegible]の畑を[illegible]
[illegible]と竹の[illegible]

東都強一連

曖昧　泉連
〃
〃
〃

初季

神の庭踏ハらくもちかれ　梅渓
雪だにき新の野辺　〃
新梅の赤のむつ中丸さら　〃
深いもちの実に落る赤小　雲傑
のうさ実をけらく蛭小　〃
元日や人の仏新こなれき　雪村
赤飯や彼も赤の茶の実　〃
丁野や芝もちくてらく下　〃

東都定連

新の春新て結ちらきつ春　松濤
かひきい餅もおちらもの西　〃
ちらの結ちもやとの元　〃
大きな野の義ら　松の春　来川
初々の日向ハ出ちう所の亀　〃
梅相ち枝春中ちう福来家　升徳
子の春ちめてよきち出ちら下　〃
春ハ夜きこそ為ち世の風　徳升
塩袋のちちちち山ち出　〃

海をくるこ　仕あらし　初日の出　東保

持つやとれも　蓬屋の　夕暮　青　〃

清正

東叡花王院桜川連

鶏の鳴　なのもてもて　書きかけ　陳子

梅のもと　行燈つくり　深夜　〃

きまりふもちの　きまく　結果　〃

栄のもけや　〃　結び　賦　〃　宴山

功をよ　新くや　馬の　宴　〃

松井の　松　夜　〃　在吉原　素山

此歌あることを　ちてを　みる　〃

聖あり　ことに　小ふと　集をけを　〃

稿　松　松のもつ　ふるよ　ちの下　金志及　平窓

流　を　を　拭　ふる　梅　〃

宴　ふ　ふ　〃　〃

と　ふ　ひと　ふ　ゆ　ま　宴　〃　等虎

梢　宝　や　と　の　月　の　教　〃

平壌

東都南港皎月連

竹藪の　流　宴　さく　つ　き　下　炭倉

[illegible]の塩さう[illegible]
[illegible]ついてゐれら　那加日郡下　〃
[illegible]　破六
[illegible]の二[illegible]の[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　帛越
[illegible]　田原
[illegible]　〃
[illegible]　〃

[illegible]
[illegible]　海老
[illegible]　〃
[illegible]　績麻
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　黒板
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　梶取

心ちのそこなはるまゝに
惜しむこゝろ小
きつとうゑ戸の松きの雲ゝ
百二十餘ゝ年 梅の花
すゝきゝかゝ大さう寺の傳記
五餘のうつ所ゝ
神理尼の墓ゝ世ゝ小
六ゝ世を世て代るとゝ
墓水を汲ハ白ゝ小

、
、 柳尚
、
、 梅咲
、
、 柱平

春雨

奥州松倉屋養達

新寺の和ゝこゝみ初鶯小 完杵
百樹数ゝの多る山小
、
、
、

[illegible]山と三位と雪の中
庭樹[illegible]
つゆ[illegible]の米
[illegible]を掃[illegible]
[illegible]のある山[illegible]の雪
人[illegible]おい[illegible]の雪
[illegible]の味
[illegible]竹
、
、
、
、
、
雪入
雪歌

上陽

[illegible]先[illegible]
[illegible]
嘉教[illegible]原中連
[illegible]枝[illegible]
雪蓮

[illegible]
[illegible]
[illegible]星の[illegible]
日あ[illegible]れハ其[illegible]白[illegible]の[illegible]
[illegible]段の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
、
、
、
、
、
、
霞
霞長
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
元日の朱すきしるる笑ひかな　篠水
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　金篠
[illegible]　〃

一四翁

我つかこしまちぬ松の風　吉江お良葉英堂連
二月八日　梅の つぼみ　〃
〃

枝をうの赤の蕾をふくる枝ぶり　無言
うきくとさ形てゐる梅ぶり　一毛
人形の動く手をとしこ　文一
ちらつかさ生ちる梅　風莖
梅のさくさく向うとのこれ　〃
さ紀笑の先へ行るや初市の蕾　久國
るもらを笑ハせる　巻山
とゐの串柳ゐ　素秋
出ちゐて来るや蕾の梅ゐ　〃

極楽はいつぬものとしの暮　少風

雅天

寄みつる連

松竹の雪きくるさや梅のむ　銀海

いろくと和らいくくと春隣ぶ　貞志

そらさいなかるも雪りとの雲　〃

いつちうとしつつ初の出　一木

一さんは富永山のたつる雲　庭松

正直まつらさなのりけぶ　西越

湯ぬも人のんて春のあ方弘及　三日

松風よまるせてやきく　梅女

けとも点る福寿の白ぶ　〃

ちらいや世よくれちきのうり　梅生

河も潮もいつるれのめくぶ　〃

きをや紫竜ちーの月うめ　一の舟

吹てくさ弦楽月きぶ　東系

まつまるを新国梅の世と　古溪

たくやものさらちきく大きこ　川生

星外はめけて見りきの去　手生及

一風

腰よつて霜も梅のまちぶし　雨形
星ハ今ふ二ま降てきつるれ

初陽　東都松坡連

元日や出さいりあるき吹の町　醒山
雲あらうこえこるきのかーらぶ　〃
煙さきや釜鳴けー松の枝　〃
沙鷗松を立てきつるのれ　涼影
雪や湯もとの町ハついこえる　〃
きさきや物をいさねハきれぬ人　〃

ひとあるみてて田舎の笠の雪　雲岷
ものまハ雪ぬきやるの面　〃
松立て青のつ先雪ひろ　〃
助や百姓町も松さき　旅雨
おのつら時きるきの面　〃
とーるさきふいこえ人きの石　〃
雪ハや桶もくらハ九条の庵　井性
下旅てて梅を見たる徑小　〃
乾風や煤掃きあるり川向の

[illegible]　　暁石
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃
[illegible]　　雪池
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃

春香

[illegible]　　素都樹衛連
[illegible]　　龍山
[illegible]　　〃
[illegible]　　吐暁
[illegible]　　〃
[illegible]　　蓮宝
[illegible]　　〃
[illegible]　　〃
[illegible]　　安良

餅ぞよめてきて東の風ぞ　、

除月　東都赤谷花連

冨士のうへ初めてうるる初日ぞ　稿戈

第月のゆるらやうめのも　、

釈の杖ゆきてぶ安とりの枝　、

きぬや車ちてこーるの上　所石仮　赤心

燈きんて祇宝もちやむ夫姻　、

物ての杖ゝゝゝし新の数　旭山

きのうの方北ゆうるる手斧ぶ　、

物のもゝみ芝てきまぶ　横市男ゆ　四草

人をき候めてゝ一をの声　支子

きぬや藜集て堂作くる　、

きくらら景色ゆ雪の枝　、

句芝　伊三三高鈴浦連

えりのたゝ文あるる雲ぶ　子仮

もちの言葉や新の起ころ　、

ぞふやちよゝ月松ぶき　ゆう女

景日ぶ三月三ぶやとのれ　、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上三と一出歩い寄よ生寄ろ
雪の例てハ降ぬ小ろ小
寸掃よと好く遊て将棋小
豆平八郎のこと寄る ひとり小
寄宮ハ出てくら寄ヤ初ろ手
万戸の郎てちる戸口れ
初とよ切ちを〳〵る ろとと小
雪の跡つき別て寄く日和小
秋の思ひらぬ寄ま遅へろ

子町女
、
、
竹ろ女
只雪
一葉
風立
雪消
古白

山の石ゝろ寄ま〳〵の法れ
万寄の笑ひのこらひろろ
よき貝を拾て拾ふ ふやちるの紙
寄の子ふ子ろと生寄ろ
了泥の大ろろやろ ろやの寄ちる
動ろ寄ろ寄あり大ろろ
寄ろやとく郎て ちる面話
ろろひあふきのろ〳〵の寄ち小
当寄ハとくとろあて寄の月

、
以筆
遠平
破然
坤山
、
里松
、
寄小文

擣月

ちるとてゆくよりぬ初もみ　芙山
ゆるやはの走のふこをきうちも紙　〃
ものそるるうきやうよあみよう　木二
きくきをあれるやまうの川　〃
男の代よ生向やの初の水　曉山
ちる雲ふやはの雲もくひ　易得
ゆてうらうきうきのまてはさのまち　懷心
きくらいくかめるうしはは　〃

擣月

擣きてるうゆ水時くし松のうち　上サ　谷水
砧て紙も生年うめの花　〃
月きこ一伸さといとしいす　〃
おさうやうとちれ松の古　三水
きのはをついらーるふねは　〃
花雲はのくるとけ生あるは　〃
ゆくやはこーて人の書りは　茹来
東都
きハ今小うるとけ　寒兎

[illegible]年[illegible]の用
松陰の小ようこくやさるの日 仝男 百之助
物の皆古筆ふミもたきむ 一 笠澤
さ[illegible]ハ百時[illegible]のやさきうな 、
拾ふ蓋 拾る蓋 おうとの[illegible] 、
洗てもの[illegible]ときまちか 梅台
二本まてよい梅のありはやき 、
[illegible]ら[illegible]小ハ[illegible]ハ[illegible]変 、
[illegible]て[illegible]の梅ハ[illegible] 、

すきくゝ家を聖くやさ 、
いつもゝふこを[illegible]方と笑ふ 柳葉
[illegible]寺 [illegible]ありてうめの毛 、
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible] 、
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

さうさうの風をこそ思ふ目白か　半笠
何をのそこちん流を分けり　〃

素堂

ふるやの風味のつきしおの俵　京都伝左衛門　一席
古歌をのふかぬ風の雲の月　〃
をこそ思ふ　松しまふるき梅ぶし　志文段　志耕
いとやなうついて砂利の上　〃
きぬぬやきく半るあの色　著水
雪やふんまて人はもらふ　〃

里こそふるふる半てのくもゞ　字石
ふるふのさう鉢賀やとのくれ　〃
あけちきものもちあやたこふ　廿十
梅うまさうしぬものすわくち　〃

和清　京都

試る事の先ふり古法の海　松蘿
ふくと梅の雨や船とり　〃
花て半る京野の中や言葉に　〃
ふふやけうへくる　法ひ秋　毛百

きく花や陸奥はれハ百よ吉ある　〃
世よ性の高もかしこ一度の笑　〃
神ゝる百よ年きく福寿草　得章
風の松ちらみゝ花動きけり　〃
けとをふまて新の初雪小　〃

東都石濱連
清展　海棠園

松陰の濡よ新つとまつ口れ　義渓
蓋の茅や泡のうまる細塗　〃
ゝせるの濡よ生るゝ年小　〃

蛩ゝみの面新ゝう笠のきる　雪窓
新ゝてうつり新ゝ新ゝ乳　〃
見てもゝたらぬもの高の市　〃
おゝるゝゝ不ゝるゝやゝの表　一眠
表風や通りの人の中を此　〃
ゝの市新ゝゝの千代ゝゝ　〃
仲の風表の表の市の空ゝゝ　河柔
ゝゝゝ口の生る　〃
結ゝゝゝゝゝの表ゝ　〃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出羽の水無瀬やまちのつゆ　季得
とのの雪山椒をきて白しぶ　〃

春景　　京都世話所丁歩

咲そめし雪のたつふやうめの花　紫凌
白くとしやのこりておいる雪の残　〃
めるるやおしーの里梅の花　雪瀑
山水の咲るき春くるの気　素人
梅ちるやしろうるいろ折ふし　湖月
雪きえうとしらせぬ春や梅の花　芳成

雪ふるしろ向ける高き山　花玄
梅咲て都ふるる月春うれ　仙翠
雪九月海ゆるやさるるの海　古雅
物の雪引出るやさるの海　有益

松影　　武模四名乗五連

とゝの香や笑のさうき内人数　城山
雪のかゝ梅るやさぬつる　〃
り色のこゝるやとゝくしぶ　〃
春の風房ちる雪物下　みち女

えいやとまるは小雲の一つ　宗山
雲のうち山のあいゝやまの月　〃
けとーや庭一さいはら家さいら　〃
うめのもとゝんのきゝむ紅ゐ乳　都山
京ゝ出て出雲をすぎるや梅の香　〃
梅のこれ今つく印ゝ義さうう　〃
松杉の赤さたうれ初うえ　雪山
小酒屋のうゝをぬけるや梅の香　〃
けゝの雲うねう山きは注来れ　〃

義隆のぬうゝ義隆たきれ　斜山
きまるゝ山のうきれる家のあ　〃
雪を出て初をけ山やたるの風　〃
ちんとゝ雪のあうちうゝ　〃
やねの雪解る春さうや月うすき　墨山
大ふるやこれとゝはとをる　〃
口のうるつうゝ流ちうわうう　楳女
うゝ待月は成うちるやおぎ　〃
新雪ぬ庭をのるおきゝいまし　〃

雪風の音はいとしるかりけ　雪山
れのもとのもとのとるこゝろ　〃
ふるこゝへ上てしるやまの風　〃
雪やいつくの花ちる雪の松　眺虎
砂原て庭を低ゝまきの風　〃
砂上のかゝてゝ絵ゝ　〃

春岡　赤松宿寿無連

水よりのこゝろやまもゝくと　よりち
白菊やあるゝもとせいハ水のを　〃

ひとゝやまて笑て干や雨相酒　支ゝ
ゝの尾やゝ〳〵菊ゝ花ゝを　〃
まつ〳〵ゝ雲の雪のかゝ水　きん里
桃さゝやゝ人ゝ雪ゝ男のゝ　〃
今都さゝゝのゝめゝおゝゝや　井陸
水桃やゝ雪ゝ雪ゝ水ゝ雪ゝ　〃
ゝ雪のゝ雪ゝ雪ゝを雪ゝ　扇糸
上ゝゝをゝゝ世ゝ雪ゝ残やゝゝの雪　〃
雪風やゝゝをゝゝゝゝ無注解　四合

[illegible]　芳川
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　和十
[illegible]　巨井

[illegible]　杉[illegible]
[illegible]　伸て[illegible]

蒼陽

東都雪湖連

[illegible]　守[illegible]
[illegible]　可惠
[illegible]　千雪

[illegible]畠の海あり　〃　雲桂
水のさまもまた[illegible]あるべしと
一郭のきしは海[illegible]山の出
[illegible]の雲霧の島ともつかぬ　〃
[illegible]うこきもなく　〃　雲[illegible]
仮[illegible]あるべき[illegible]
[illegible]時や業[illegible]の人通　〃
[illegible]揚る舟の[illegible]あやあるすし　三枚
川風や[illegible]ハ二付の[illegible]　〃

業の舟のまや[illegible]　〃
[illegible]の[illegible]吸て[illegible]　是道
[illegible]の[illegible]あやゆらけ　〃

玉光

東都司馬晋渡連

万[illegible]の[illegible]り　素玉
[illegible]つ四の[illegible]　〃
[illegible]の[illegible]　初磨
伸[illegible]　さわら女
[illegible]　〃

えのの山部より鈴ふる　少女　雲母

いくとせ八月もおきて桜の花

小倉山のこすゑ吹ー大きうら　〃

よい風のつれなくて吹まうら　松雨

散よ吹る沙のよりこそあれ　〃

魚をとる海の小舟あまうら　〃

つれなき海のうら山家小　静雨

おりけるまうえて桜のしつく小　〃

世間にて三世きき寺昌小　〃

えのの沼や蓮ちるく吹ふり　少女　皓月

まいり来て蓮の上の露小　〃

蓮を待んひとうまうらう　〃

よきうの山ついなき毋ーまうま　岱雨

赤ちもちくうゆうやうめの花　〃

吹ちうちもちの蓮やたうまう　〃

まつとりのあうをーまう法華小　羽白

里のうの海うえて蓮の蓮小　〃

白うまをうちあまうまう　〃

君のちとせハ人の伝へし　方樓
すまらひちとせ越ふ弧小　〃

哭多

机ハ山も高くしてさつ砧　東郡伊勢之産　東江
来る人よ春をとてちさん梅の色　〃
こゝろきの磯のうらこの雪　〃
おさうやまのちくもやうち　東晩
うくいすの鶯やうめハ春の月　〃
古曽秋のあきと朱ふう　〃

そうゝ来ゝ来ゝ高ゝ高ゝ　夕陽
沒て生ゝ栄ゝ栄の沼や梅のき　春霞
おきうやしゝふくて吹うら　家飯
つゝ義ハ月のゆちるまるの雪　〃
月とものゝもしのもゝ義小　〃

青こ

初ちやゝの特ゝて小田の雪　阿波　可大
芹高ゝ松ひゝうゝの七ゝ小　〃
たちゝ孔の雪ハ山ゝ佐の弟　〃

宋園

道之

完我（スルガ大こう）

一樺（信濃石岩）

京都　菱巴

とゝの雪をつゝておろす新おさ（カヒウツフナ）

雪を踏ぬ〳〵て梅の木影花小

けゝのゝゆゝものゝく見杉子

四方のゝゝてゝゝるゝゝ雪の色

咲やゝゝゝ八梅ゝゝらぬ数ゝ水

迎春

鶯鳥の声ゝ聞ゝ春ゝ初ゝ

雪ゝ中ゝ気ゝ分ゝ光ゝのゝゝやゝけゝ小

四ゝの気ゝ中ゝゝゝ三ゝ月ゝゝゝ

五寸
〃
一路
〃
〃
吾松

秋晨

えりやいつより原まき田の秋
一夏もいとゞ同じ一ちこうみ

柳堀
〃
一泉
〃
〃
章瑞
〃
〃
昔云

はぎうけの小渕まくや柳の花
昔雪ふいよ柳ふるる花ぶ
以前よりき塀の内のまつ原
まこ風ふれ次第やれ小
西生ふんうけ大ぶそう
よく雲のよいることまつ鶴
柳つゞく柳もまさぬ
昔雪ふいの一日来う藪の蔵
うゝとる世をひらくや柳の

大海の一すじ白波や初冬雪　横雪子連　妻河

四季とてふ柱雪もきさらぎ　〃

霜ききの手わたの手わたの枝　〃

きつつ手ぬぐいかぶるうらう　美魚

留鳥のひとりの笠ほ名乱　〃

と忘れ小粒をこぼしうう　〃

東都南港連

青陽

名月のこころやさしくて松のうち　沖風

雪吾はやとりの市　〃

匠の鳴く方ふる雪の家ぶり　汀鶴

庵下ふるさとの行方や芹雪　〃

と木つむ車ぬけるかたの風　〃

ちん雪の一やかのうる　晩成

雪ぶの魚吸ふるめ月ぶ　〃

笑ふ人のこころ雪ぶ　〃

雪ぶ歩は笑ぶ雪ぶ吹のうる　草古

よろこぶの笑ぶ雪ぶ　〃

福雪を引ぶ雪すめぶ　文次

梅さく山の陰のかくれ茅
万歳の鶴さへとまる市
元日八ま阪山てとしつもり　江山
梅おくる光の位やとの春
大雪はまるまき初日　達江在号　龍子
鶯は雪をまを作よる
おもてを人ふるやとの市　和風
洲は晴る雪のあるや初春
春風はてもまる稽古

源氏を踏こくるやまの雪
郭公のみち来るとの岩
つめくを鶯のまくて梅の春　主山
色をぬしてもとるもの
入梅はこそ出うの和のうち　銀雨
沙浸の乾もうく海られ
山くの水ふ足高の雪
初雪や笑ふて塗をまくる　宇為
世の春をおさめる陣の為の

[illegible]　余子
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　十惠
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　說阿
[illegible]　〃
[illegible]　桃支

[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　英富
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　子德
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　素舟

白魚や月のこゝろ網の中　〃
との長祝の盃事のまこと　〃
元日おいて二日の月出　桃洲
酣のゆ一すれてやあきぶ　〃
いとまなく春一うる秋きぶ　〃
山雪永代橋のきつゝ乳　業之
春柳や一まき刻るきしのあ　〃
稿を教きと刻るや大こそう　〃
赤ものは出さうかる菜の花ぶ　友吉

とこゝる桜のつゝみのひとつ　〃
万年は引出流る笑ひぶ　め文
長つゝく東雲の春そ山鶯　〃
咲そめる梅の動りて福寿草　吾友
日ゝ影松こ沒角や鬼のまめ　〃
つ松やおのれゝ山とおもひある　鐘秀
大こそう山の蕾ちゝめゝ　〃
彩一き子とりも沒和ゝ乳　甘員
春雨一面洗ふ庭の細竹哉　〃

春味

東都曲象花壽　昇鯉

物のはなの春風吹るあけぼの
笑ふ口ゆハものく〳〵ぬさくらかな　〃
寸白のとれるかうやこゝ
出そめの文字は歌ハさ月雲ぬ　雀好女
さかてんまうこきもやらに百のてふ　〃
百れのとゝ赤くまゐる花うれ　〃
春ゆらう　花のこゝろきく〳〵ゆゑ　昌月
沖の帆の春風うやはるれゝ

しゝこの已おれしとゝのうれ　〃
うゝやゝんゝをきやゝ人のあゝ
はゝとゝをこゝてゝのまるゝんゝ　〃　霞月
小男の風ゆ命やゝ男やらい　〃
ゝゝ九ゝ乙ゝ六十一のゝ乃ゝ系　〃　曲雪
原ゝ雪ゝ梅ゝて梅ゝやゝきゝ　〃
日ゝ影ゝ九ゝ月ゝのゝてゝとゝの市　〃
笑ゝ月ゝ八ゝ月ゝ　世ゝ老ゝのゝる　文船
ゝゝとゝ斧ゝ師ゝうゝぬゝこゝてゝ　〃

七ゝ[illegible]も植て[illegible]
[illegible]
咲[illegible]
金[illegible]
月花の[illegible]
[illegible]
[illegible]

、　柳塢
、
、　得愛
、
、

新正

元日や七つさがりの鐘の音　京都　志考

おもしろやさまの[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
出[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、　紫雨
、
、　平波
、
、　玉霧
、　思風
、

衍の手こゝろにたましひ
ゆゑ〳〵てとゝ　　漱石
松蘿と改名　　、
きこゝやうを分とけ　　尚健
ひとうの深のこゝろ　　空てる女
物とて　物ゆゑ　　、
ゆるゝ　集ゆゑ　　いく雪
きこゝの外　物のしつく　　吼山
こゝろは　時気　　、
なすゝきあれ原　　、

寺無

寺都白睡連

学のちく　や梢陰のとく　　宗松
物うきゝこゝろこゝ　　、
ふゝと　物のふゝ　　汝物
きこゝ原のつゝ　　、
ちるの心ちく　　柳月
ま物ゆふゝ　　、
物ゆゝ　　の字
笠けしゝ　　、

次第を生も世の思ひのまち　一之
ちるの月の海ゆく雲　〃
山桜ちらでとゝまる秋の夜に　〃

東都新道連

雨ぐもるまゝ八ツ橋の門のくち　宜稲
傘さしてあのうらに見る桜花　〃
桜の木もとを拂ふや蝶の所　〃
手拭をのせてつむ茶煮　鉦阿
弱とりや桜ちる折の屏　〃

桜ちる事やうくこゝろのあり　白栗
〃
うぐいすの鳴を聞うてゝ花せうり　〃
海棠をちるを見るも哀なり　海獺
桜ちるまゝの雪の寒さ　〃

三河ほ之保

春雪
ちるを花やうんてこゝろ　完伍
雪ちるを花てつもるの陰　〃
ちらちらつもるを桜ぶ　〃
吹つみをちるの中に桜ぶ　支山

[illegible]の[illegible]や松の[illegible]　古雄

おくのほそ道永山をたづねて

[illegible]なる初めつまや御島（もとしかけ川）　吉孫

やとりの海ちかきもまなる小

[illegible]の[illegible]の[illegible]　逸誠

[illegible]の[illegible]の[illegible]（アタコ）小

[illegible]おく[illegible]すれば[illegible]小

[illegible]の[illegible]風の[illegible]小

世をうつすを[illegible]　吉[illegible]

ゆくすゑの松ふん紙[illegible]

[illegible]（殺生石）　素江

[illegible]の[illegible]　甫石

[illegible]あまの[illegible]

[illegible]川[illegible]

[illegible]の[illegible]（芦川村キシ）　言[illegible]山

[illegible]の[illegible]

[illegible]のいつ[illegible]　依山

[illegible]物の[illegible]

終一文字松のふるきを遠望　吳服白川　探象
庖の叢をくぐりて高すゝめ　、
ちらくとあり紅ハ一とし　越後屋の町　莖水
神松ひめくやるのの色白紫
佳とり加ものあつ梅の香　、
分ゆくてつゆ時生地ハ　、
紅梅のさ可きてるゆ梅ハ　カヒミノフ　雨光
大きめたにさちるの葉ハ
所を生て田屋ちるハ梅の色　梅地

不ふるゝ生ふるゝ　おのあめ　、
正月も半つきゝやくめのさ　上毛長束町　芝丸
雪ハ梅をくゝりていとわさ
梅ふこを氣ゆらいや石のくく　吉田木原　浪毛
和ゝを材ゝ梅ハ　、
上月　後河田井連
元日や咲ちきゝあ　梅の枝　芋風
梅風をさめてゝ　、
雪ハとあるとつ峰の船　美岳

[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　等淨
[illegible]　　、
[illegible]　　、
[illegible]　　橘方
[illegible]　　等淨
[illegible]　　、
[illegible]　　、

何[illegible]の[illegible]　　[illegible]雪
[illegible]の月[illegible]　　、
[illegible]の[illegible]　　、
[illegible]　　雲阿
[illegible]　　、
[illegible]や[illegible]

佳氣

[illegible]　　[illegible]都雪月等連
[illegible]　　等我
[illegible]　　、
[illegible]　　[illegible]亭

川柳咲の時きそうの明
者千年無きを咲や妹の庭　〃
心のさ初きもきるる小　〃　雀屋
月のさきもつかてつの陸小　〃
きをと結年用きるき雲小　〃
ものきんのもけきこと孝小　〃　乗法
言葉の面りぬけるこてあ小　〃
もの美面と着を美りる　〃
見ものや笑きき咲物口　〃　物雲

咲の松方
八十金受
咲の部　天郎
笑つんさ京の模ものや梅の老　〃
部さやふ三のかりを梅のもく　〃　三日市場　若雪
きもやきをおもよ又古ら屋　〃
雲の種ものけこふいもり小　男　松雄
もの投越ものかり　きを安

[illegible]天王寺にて いのちをまつの風 金沢 三巴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初春の曙梅まうゑそうど　可杯
むもれぎも梅ひの春のあるけさ　〃
一日つゝふつゝるつゝやとの梅　〃
（いとゝ雪の降をゝゝゝゝ必要をのるちん）　七十一叟　雪花
茨苔を春を待ちかりさきまちぬ　〃
松ゝや湯ゝ花ゝのきれあひ　〃
春の夜もかさねてそのかゝ人ぶ　〃

彩雲

かゝるかな梅のゝ水やさきのさる　京都子孫子春達　北門
ゝ和ゝ和の春の舟やゝ紅のゝ　〃

船風を雲ハやすとのゝれ　〃
いくまもうゝぬ梅のいろぶ　梅机女
梅の春のよきゝ日ゝ雅おゝ　〃
うゝよや世の始きゝ陰ゝの風ゝ　〃
ゝゝゝゝゝゝくむゝふまつゝれ　芙河
東四十世ゝハ梅ゝ梅ゝ　〃
雪のゝんゝも梅きゝ初まぶ　〃

和清

京都織月庵連

京ゝゝや雪ゝ人のきゝゝ　尚應

角力場の法こゝろをすまし
五十らん先の力ぬけ
万代のふりむくかゝよ初日の
雪や降て川蘆すまる蘆
ちらさんと吉野のくるやとりれ
ゆらいなうとあふや古法眼
あぬ人の結まていふやえくら
きつきやきやうはまてこゝさい
二三寸梅のはさしの伸よう

松佳

彩甫

珪坡

寸梅も蕾結かをもゝ家小

京都桂屋連

勾芝

口とんのかきらぬを伊芝小

槐市

笑らもあ〻おさまり安割分ゆ

雪蓑

えるや松をゆめるまつ此中

梅のを

百姓の俗ハ元ゆ素俗

ふ楽

上先キの雪もとる梅のゆ

梅うゝやあを陳せさ〻ゝ香

横丁を生て咲れうちるの風　、梅富
あるときを毒をあたばつるかな　、
雪やきくいとてふの家　、
一夏の世をもしめるや隠れの宿　、
月の家の笑部うつすや福寿草　、楫通
供つれて梅の細道捨れけり　、
すきまをもれらいそるく雨ぶ　、
えらやんなきせてこのとは　、
きぬやこの芝堂のふり来　、

和のもの世とてもすたれつ梅　、
東都さくら田在元治
風麿

限りなき影まくらん老の去　めく富　露岳
面ふるや田ハ田ふれて去のけ　、
雪毒のおくれ毒やあ一の梅　、
蟬の蓑をつまんておくれ日のきめ　善欲
きーは月のさめてしふく来蛾　、
形ふる橋やかうき去夏こと　、風他
毛の数丈夫なついて梅の幹　、

ゆうさくれ雨ちらす初鳥　壮賞

汐入の藻のさきやうめの花　〃

さき出さ社前のうぐいす隠れの　〃

流るるつ脚やまみさ川　美山

法華よりはなれて出の城うぐ　〃

ずり拾やーいまさんの支斗　〃

ーら魚ハ拾度もものうぐめ小　幽汐

酒ひとつうふも人ふや梅の香　玄我

魚河も新藻のまと集うぐ　〃

まのち時の加るを　〃

一里余も来てーのうめやきの新　スルカ三ノ市場　柳秀　桑都

ずきうぐとてとるる屋ーきい小　〃

承木多の新毛ぬう松の老　武井クマカヤ　左十

山玉ヤ雲ある物を歩おこそ　〃

苔を踏多の之ぬや梅の花　菓蕭館　魚川

山の尾の木の葉搭てを稲田ら　〃

明るまるうぐうるや松の雲　梅宮ニ　雪吾

地の尾後ぬもうぐ色雲小　〃

[illegible]の川辺の[illegible]　第一言山　岸雁

[illegible]の[illegible]の近みより

松風の[illegible]

[illegible]　丈百孫　射堂

[illegible]の[illegible]一数つもりて　亨記

[illegible]の[illegible]の書

[illegible]を引もとりしの書

[illegible]　南二

[illegible]の[illegible]　月情

[illegible]　朱柏

[illegible]　大梅

[illegible]　素芯

春色　七十四

節なくもこさくら仮や松の色　抄記

つめくさを摘てもとるやこめ菜花　寿子

聖稲の[illegible]　少子　蒲子

初月をつぬく枝の抄や　[illegible]風堂

[illegible]　[illegible]

樟八日影の[illegible]　半笠

[illegible]　[illegible]高

[illegible]　[illegible]

[illegible]

雪の降てをれつくしたる
却ぬけは古寺を帰りう
陰者も入てやどの割子
紅をこてこてとんつくしたる知

江使
欣童
楊仲
多義

仝

井のぬりはきい所をこそ
ちきこそよきい梅さへ八重の大きなる
まそのふるをかはちうまと
ちきまをを紅てまそらむまぬ

弧月
夫定
東之
宇月

梅うの表想ひやる外の外
雪やうくれて宮もしるやうき
宮性をつけて戻るやきの風
皆はきこの中のうめ咲ぬ

仝

風風雪雨ひりぬ梅の色
白梅の頃をよう白ひ乳
うくれ京といまれぬ梅の白ひ
まそもれや酒の量も一升徳

兎路
嘯文
有岡
槐江

蓁〻
楚郷
其玉
菜心

梅の月うすきまとをもるかな　翠羽

春風やハ白ひを梅の樣なれ　蓁嘯

梅の香ぬすみ分の弓はりなし　錦江

梅の花の笑をぬけ出て梅の花　蓁阜

白ひあるもの〻ものめかぬ香　竹史

物さびしのさゝやかに年のよゝ　法翼

實の目を解よ春の青　桂岳

形弾ゆまつとゝ梅の花　如山

きの雪ゝ梅ゝ梅ゝ　菓庵

白菜の形ゝ雪ゝ梅ゝ　蓼洲

蕪村句集　錦曉

梅の花　木戸

梅一ゝ人ゝ梅ゝ　宗瑞

梅ゝや二日月の新しき　風葉

あひきする梅ゝ色　梅門

雨の中ゝ風の中ゝ梅の花　風化

梅の花　青龍

白雪ハ京明石ヲ去ル
千海苔ヤ岩ヲ出ル夷の石
宗七つまてを生
まれ[illegible]まき結ぶ
[illegible]この陰ヲて[illegible]
みとうさや出やうとすれハ出の業
対風うあれハ船ハ東一波つゝ
松ヶ浦の上をあるて来のあ
まの明ヲや岩の[illegible]の伸る

梅人
魚藻
桂翁
宗宇
風来
風象
為山
[illegible]瑞
水哉

百四

阿田川きをあるまを世ヲ
明石のや結ぶ水[illegible]梅ヲる
[illegible]て月[illegible]ヲる小面氣
[illegible]ヲ水の宮[illegible]の[illegible]
四[illegible]ヤ[illegible]ヲ世ヲ世の月
[illegible]ヲ二日ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]て[illegible]
[illegible]ひく[illegible]ヲ田川
[illegible]の[illegible]ヲ世ヲ[illegible]

一風
衣部
海文
宗阿
芳洲
書谷
九延
風雄
書峰

雪まとうて咲る紅梅下
葉の緑をもらひよりや梅の京　　芳月

仝

鳴やら声の小口を手ゑる時　　園翁
雪の間うゑ[illegible]さしの芽　　恕丈
ゆふめハ底ハ沒あまの風　　秋爲
雲日や笠きつゝ桂本梅　　宇兮

仝

蕾一の鞠蹴て告やゝ芳月　　杉二

仝

[illegible]ハ[illegible]ひきも寄一瀧の紅　　他邦老能　雪蓬
月の昔しつまる梅の白ひられ　　霍山
雪やるのう一[illegible]を[illegible]る　　一沖
二里来て[illegible]来る[illegible]る　　星格
伊豆の[illegible]ハ[illegible]ぬるも[illegible]　　雪尼
声の初やをけて声ぬ[illegible]盛の廻　　蒙山
歩一入の帆を引[illegible]ける[illegible]れ　　眠山
さ保姫よ[illegible]ハ[illegible]ハ笑い歩世　　壬教

[illegible]

空明
仙蓋
雨光
玄言

浦梅や[illegible]の[illegible]梅の月

全

梅ゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
義文
梅一

[illegible]

春海
東吏
麻行
兎角
[illegible]

梅の[illegible]

[illegible]

梅をゝてもとゝれハ[illegible]の[illegible]

菜のもとを[illegible]

[illegible]

全

[illegible]

[illegible]

坤心
菜月
月紅

[illegible]や梅の花　文紅
梅咲て匂ふの[illegible]機[illegible]れ　百川
鶯を[illegible]ふる枝の梅の花　百梅
[illegible]月[illegible]物[illegible]人の[illegible]　[illegible]
鶯やものさびぬ[illegible]の[illegible]　精花
猪鹿の[illegible]りや[illegible]の[illegible]　清風
[illegible]　子交
雪月やせとき[illegible]　墨当

仝

梅ふりを[illegible]の梅　柳牛
[illegible]の月　素江
[illegible]て梅を[illegible]　妙孝
鶯ふる[illegible]ハさあり梅の[illegible]　東二
梅東[illegible]ふ二の山　雲山
[illegible]　笑仙
[illegible]　雪味
[illegible]　柳二
[illegible]る[illegible]　鬱富

仝

鶴さそふ梅の門　子規
ちらしかとあてまの雪　夷白
きるの白妙さきそめて　雪月
法よりさきて波さくみか　文貫
はるみてこちらもる　柳川
きめらて宮まつむ家小　子代丸
朝日をいてハ服　仔安
永さらも冨ぬ用ふ　象山

仝

夢ふ名所の影の梅のうち　完倫
さるの傳さる雪下　草路
きの月橋ひつ　春兎
ひ人ハむ中きの　菓洲
ふ形ハ梅ふ衣の笠　雪知
世詩次の形の写よ　史山
名流の袁ふ　梅花
夢中雨きふ梅ふ小　冬羅

仝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清風
来園
宝潮
蓬吟
的
不邪
可月
旦松
雨堂

眉白
組来
雁路
千文
石塢
清厚
登可
楚南

今

白梅や下閑を隔てゝ
枝の末の刮ハらゝ梅の色
吉柳二寸ほどの蕾
小雀ちらて梅の工夫さな
人来ハいとゝ乃ち花ハ
吉乃ち庭ハ清めぬ清の雪
来庭の梅や日の出る匂ひ
梅ちと吉ちて庭の梅ちとぬ

仝

雪高うい高ちてうめの花
まつとて雪踏分や風乃伝　月兼
めつらしき家ゝ雪やそのの町　鐘山
雪ふる中を金の物屋さし　紙光
恒然ゝとちらまちうん　梅の色　月翁
大きゝ中をうんて人と保ち　京鳥
　　柳昔

仝

まつ中のあ(ぶ)ぶ作ちる木の雪ハ　東都老鶴
細中や紅ちうかすむ大　板　等虎
紅の月の赤ゝ保ちて梅の香　金蓑
まて細い月を梅ちら拾ひ雪　三鶴
月あてたハゝうまの水　吐境
数入や鼠ちきき所ハちて　如文
り物ちまちみて梅ちやまの面　芝舞
れもせぬあとちりちる梅下　雲残
雪やとゝ〳〵おち坊松　柳鳥

仝

よもきゝつゝ生りむまの毛
初ねや波のよしゝ波の砂　顕雄
日の色てらけてますゝ梅永　宗尭
山とつる舟波の花やまさるゝ　梅渓
ゆめてゝ見ゝ梅ゝ我家ゝ生ゝ　実山
梅きゝわてゝしたつゝ咲ますめ　江山
えらよ先ゝらゝ日本橋　古栗
ゝゝよきゝ梅きゝらゝ越波　鈍阿
白雉

仝

きゝの春ひゝろゝと谷の古きゝ水　素玉
雪や芹ゝこゝゝめの猫の先　可惠
ゝの色ゝ松ゝきゝゝら咲ますゝ　紫雨
家の屋ゝ一正月しゝつゝゝめ　俊山
一つゝ及ゝ家の中ゝ梅ゝゝれ　宇為
義ゝ作ゝよきゝやりの影や梅の毛　弓云
ゝの猫人ゝ新てゝ春入ゝゝ　周里
四のゝや一日ゝとゝゝの影　梅宮

仝

沈志ハ一清之うそ月の新
雲まうり きる夢のきさんれ
生屋まらのよこ〜新下
雲を結し雪の風うらむ〜そう
雲あうら四もまつ雪の日〜小
ふるの中や荊蘇のうち文
まち風や秋人気まる江戸の都雪
和宮と人のもて来ハ一高うれ

書墨
毫毫
歩搖
篇頼
蕭阿
鍵山
就阿
槍中

日の雪はきしの四の書れ
仝
まの風雪のうらハ注来
表のきハいまつまハ新もま
きへと矢仆の伸やまの月
雪の二のまるまきむふく
言の扇ハ一るまるの郎
吹先をまれあうやまの風
仆越よう〜きハ一雪小

犯ム
張風
雪波
春江
友古
鍾秀
女員
吾友

仝

おもかげの至一きもやちるゆ　梶市
きぬぬのきりてやあけぬ　完舟
ちるもふ梅月今のハ梅のも　杉露
ちの雪ゑ、きさら岳やおの花　浮雲
村ちのゑ松ゆやめのき　安良

仝

蕨つきて屋の書ふよんん　蕃船
雪やさう殺河のきゝ田川　月降
新股をおいてふむ〳〵梅ゑ　青岐

仝

タ子ゑ仕ま者の脊尺素　甫山
ゆるる出やゝるるちゝ　木化
赤白のきのふハるて青の雨　数牛
雪やゝら〳〵面を徐まおき　芝耕
川こさぬ松ちう梅をゑる一日　三曜
風雨のうゝゆきふつ逝ゝ　雲六
注連とうゑ出てゑるやきの月　丁河
始ゝて待ゝまけつ梅のつき　三正

仝

秋ちよ秋名あるやまの風　寒菊
きく梅やむ屋のつのよい日清　志考
きく風よりれあらやあらう　松依

大歳

貢代や猫の口和を山ち降　山松
紙箱の石梅あり大三十日　平出
むさきあらうかきらう投る梅水　采蕉
書人の月ケさきやきの雪　英父

仝

梅の咲て捜さや海苔の きひ弁　浮蕉
梅うやはとしとりやそ赤豫赤具　惟芳

仝

巳のきやとうとうれうあ歯ちも　此元

大尾

蝶ともしそ自られたうとおもひ経　夷門
芸屋はよ雪ちくく八きり　皐旭
此海皮八名きとこの花ちなし　平樹
蝶掃やきあとき三芭蕉　且水

何ひとつ愛でぬうちは古こよみ　馬絡

[illegible]ひとしほ[illegible]や梅の香　粗文

去を結ぶ[illegible]ふるひとの[illegible]　橋童

旅中

江戸を出て[illegible]中まあ[illegible]雪鴎

[illegible]や提燈つけて[illegible]掃　吉良

[illegible]　丈雨

已来月晦日以後追加

嵐雪忌　十月十三日正當取越

蓼太居士　櫻花會　三月十三日於駒込常楡寺

芭蕉翁　三月定日追而披露於品川東福寺

喫茶會　四月八日於深川六間芭蕉庵

空華忌　四月十八日於雪中菴

更登居士　蓮華會　六月廿五日於雪中庵

空摩忌　九月七日正當同三日取越於雪中菴

芭蕉忌　十月十二日於雪中菴

出異以報不[illegible]時[illegible]生庵[illegible]者後